

平成25年度富岡町対策地域内廃棄物処理業務

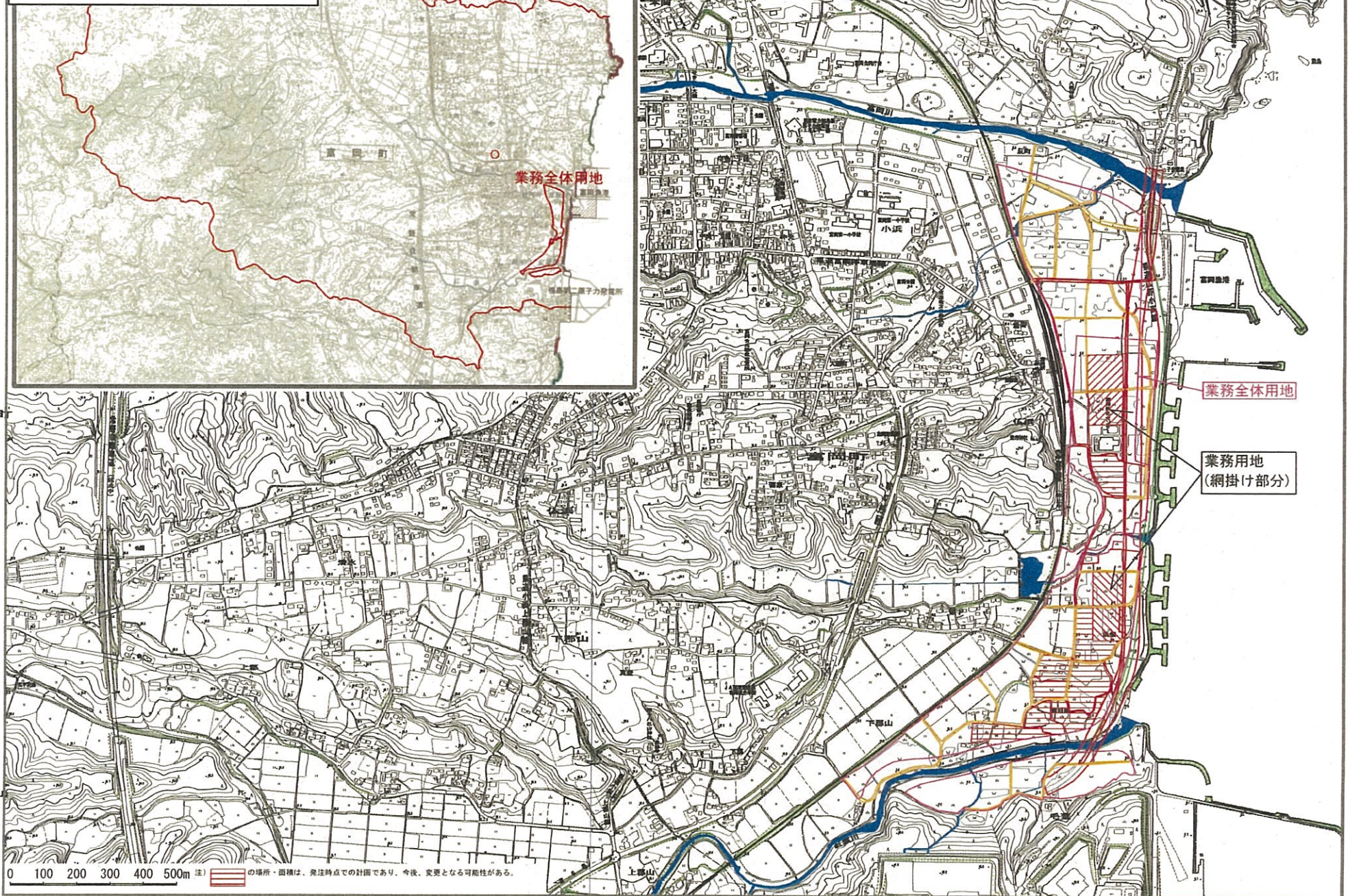
(破碎選別、減容化处理)

要求水準書 添付資料

《目 次》

添付資料 1	位置図	1
添付資料 2	業務用地付近見取り図	2
添付資料 3	破碎選別用地及び焼却用地敷地図	3
添付資料 4	地質調査結果	4
添付資料 5	搬入道路概要図	14
添付資料 6	主要な津波廃棄物の位置及び写真	15
添付資料 7	仮設焼却施設の処理フロー(参考)	17

添付資料1 位置図

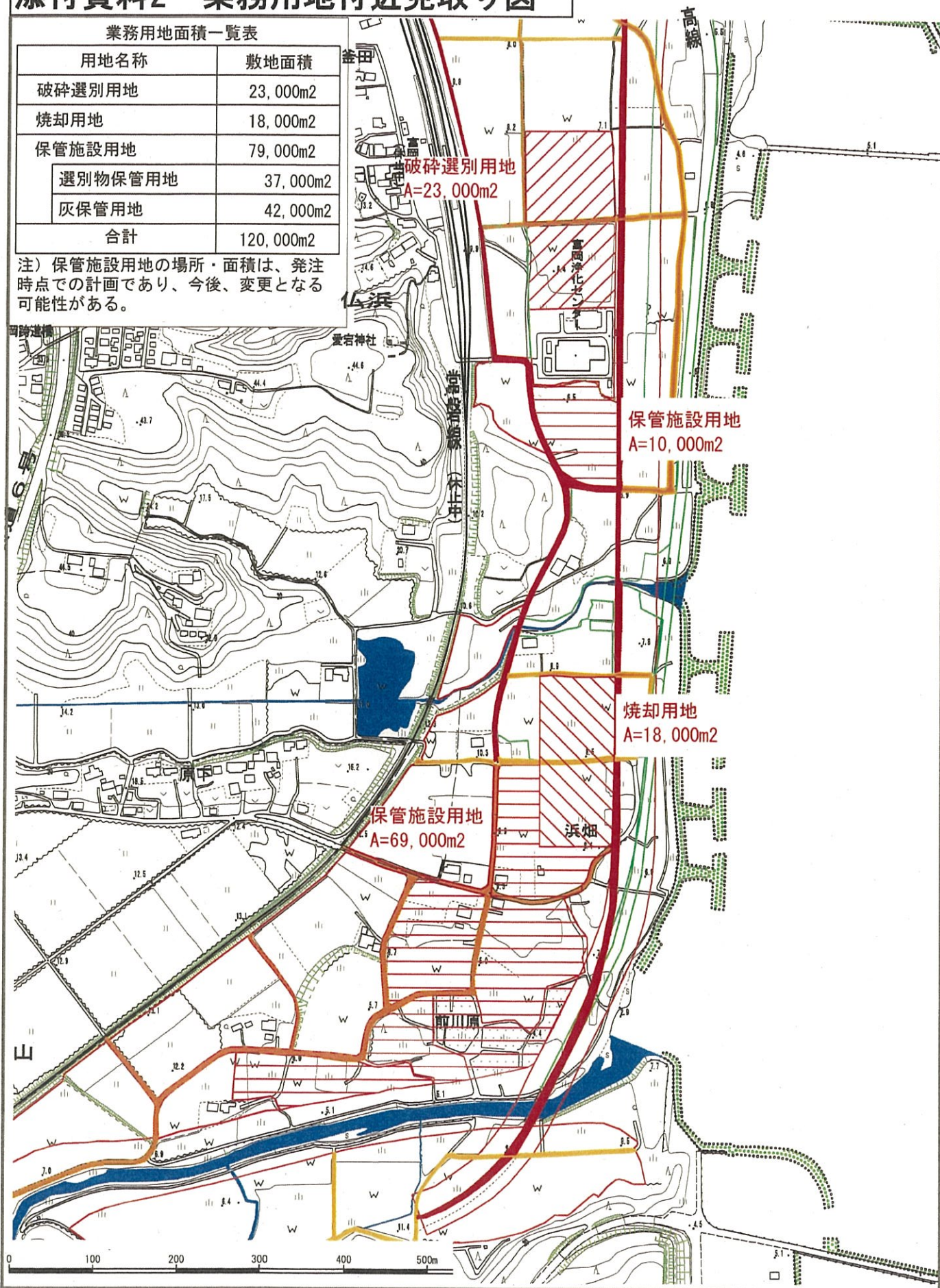


添付資料2 業務用地付近見取り図

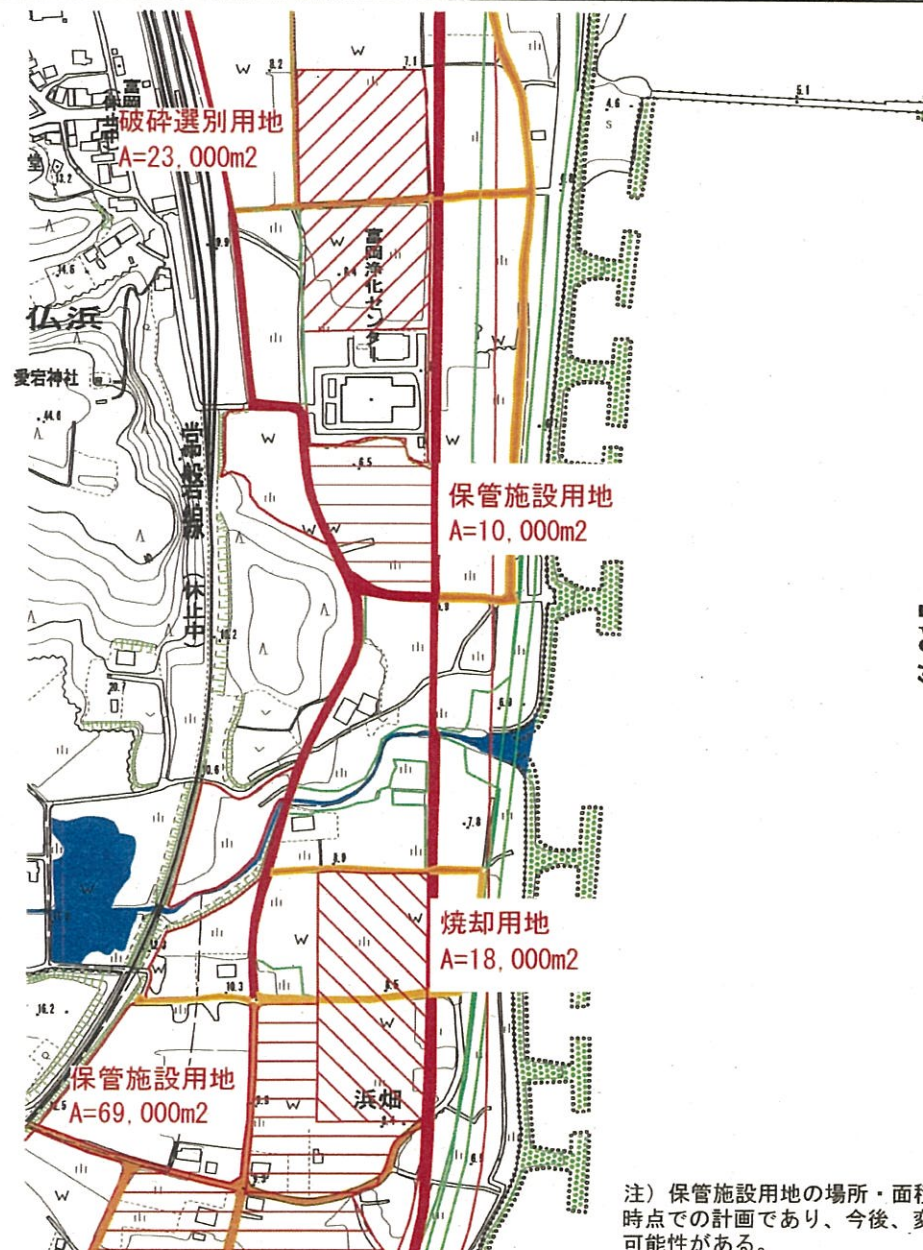
業務用地面積一覧表

用地名称	敷地面積
破碎選別用地	23,000m ²
焼却用地	18,000m ²
保管施設用地	79,000m ²
選別物保管用地	37,000m ²
灰保管用地	42,000m ²
合計	120,000m ²

注) 保管施設用地の場所・面積は、発注時点での計画であり、今後、変更となる可能性がある。

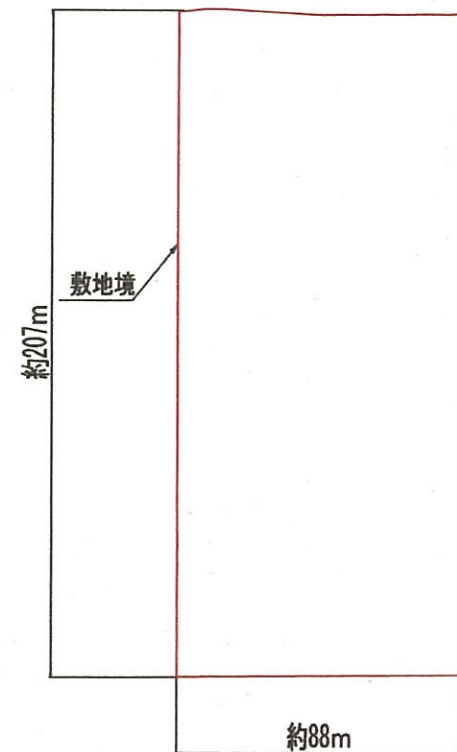
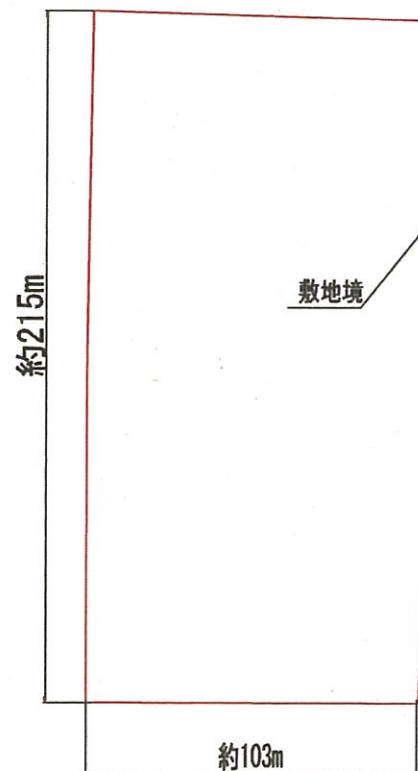


添付資料3 破碎選別用地及び焼却用地敷地図



破碎選別用地
A=23,000m²

焼却用地
A=18,000m²

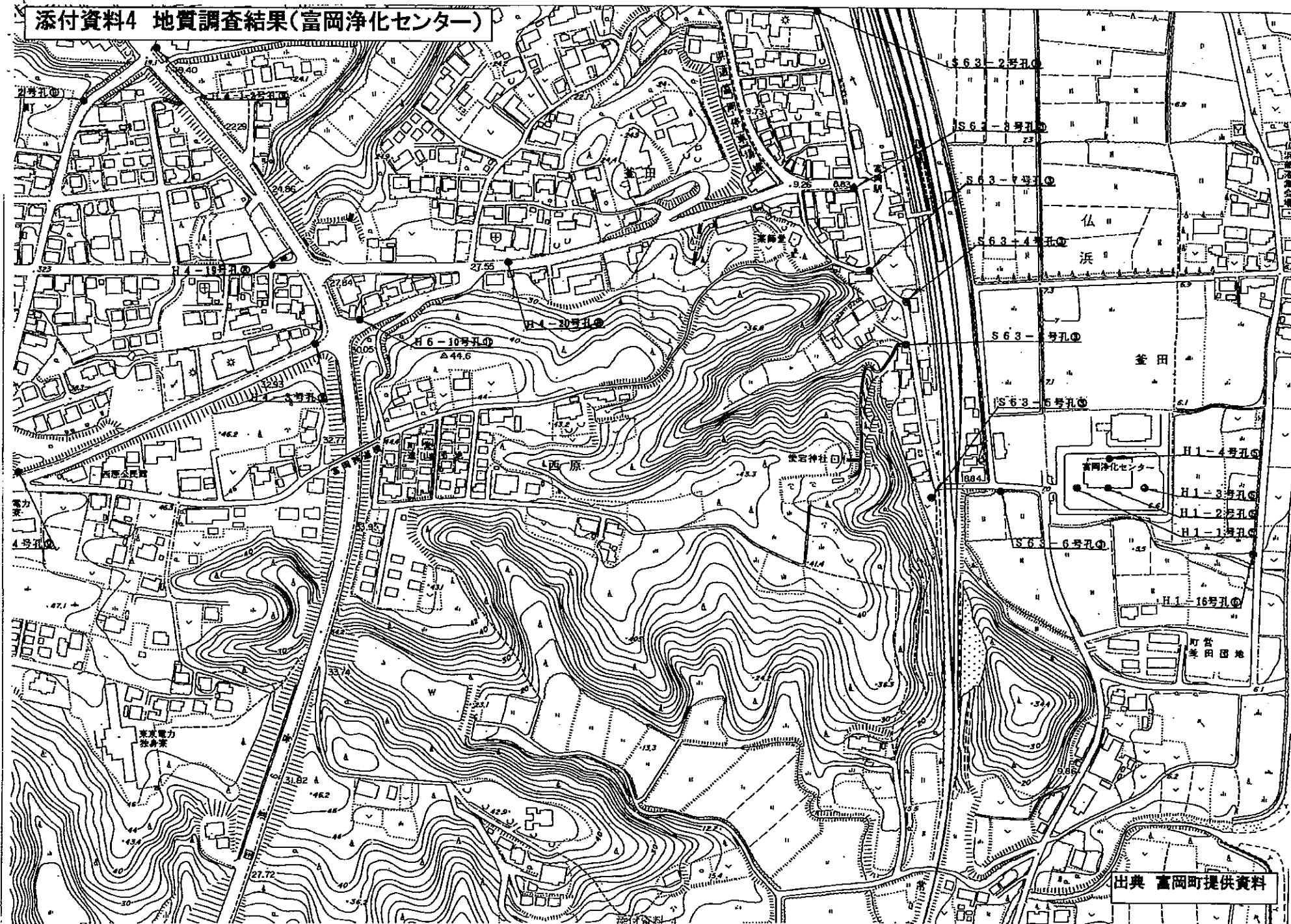


床面仕様

- 1) 床面はコンクリート舗装またはアスファルト舗装とする。
- 2) コンクリート金こて仕上げ
- 3) 床面に水勾配を付すこと
- 4) 排水溝や排水樹を設けて外部に水を流出させないこと

注) 保管施設用地の場所・面積は、発注時点での計画であり、今後、変更となる可能性がある。

添付資料4 地質調査結果(富岡浄化センター)



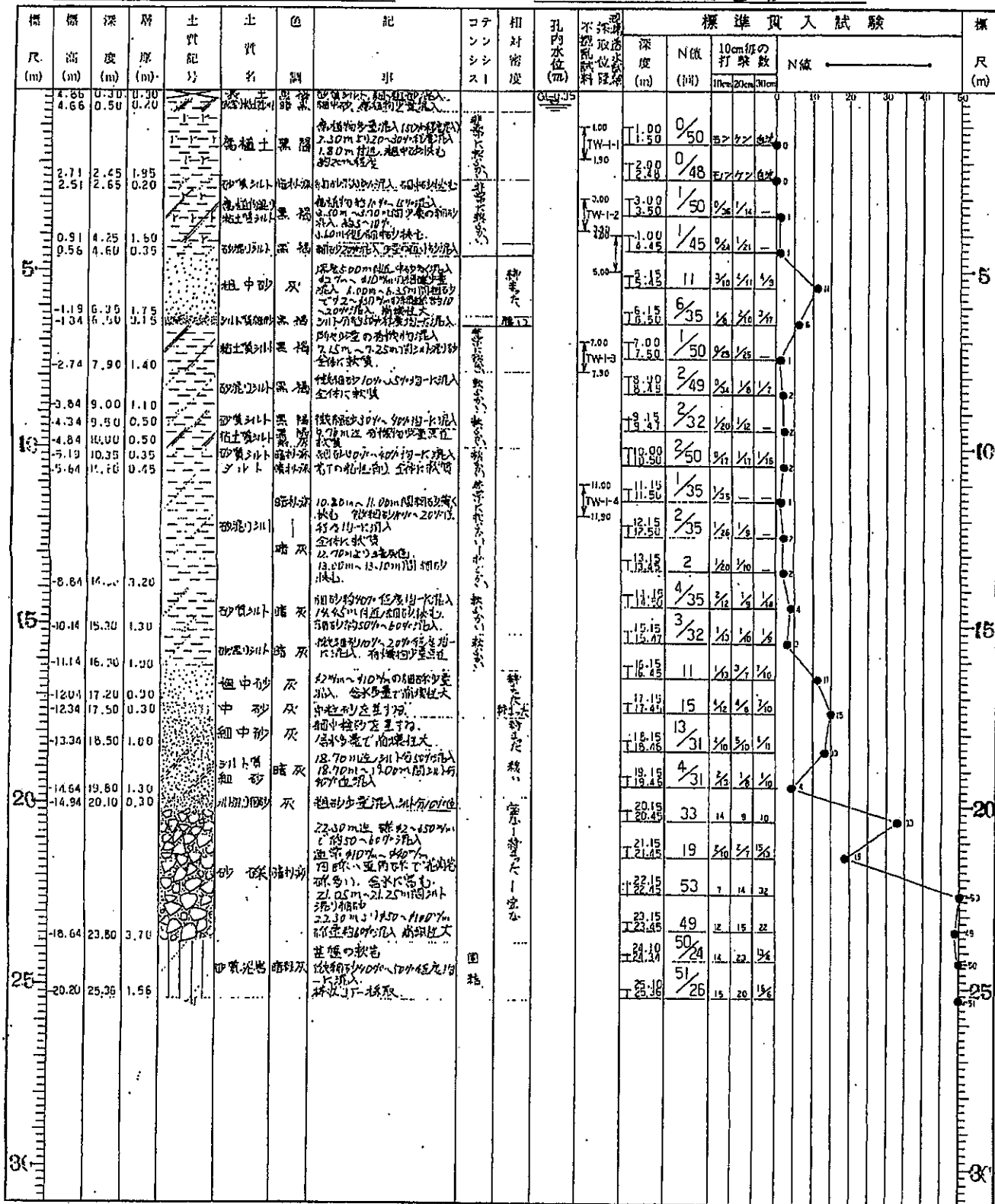
41

処理場ボーリング調査委託土質柱状図 (No. 1号孔)

調査場所 富岡町大字弘法寺釜田 地内

調査期日	自 1. 31 至 2. 4
孔口標高	B.L.=5.16 (m)
孔内水位	G.L.=0.35 (m)
孔 径	φ86 (m/m)

総掘進長	25.00 (m)
使用機械	東邦 D-1 型
調査責任者	五十嵐 宏幸
作業担当者	片山 正明



- 備考 1) 試料採取位置は、試料上端および下端の深度をもってあらわし、土質試験試料には一連番号 (B-O-O) を付した。
2) 標準貫入試験において、打込みが規定の深さ30cmでない場合は、打込み回数を分子に、打込み深さを分母にとってあらわした。

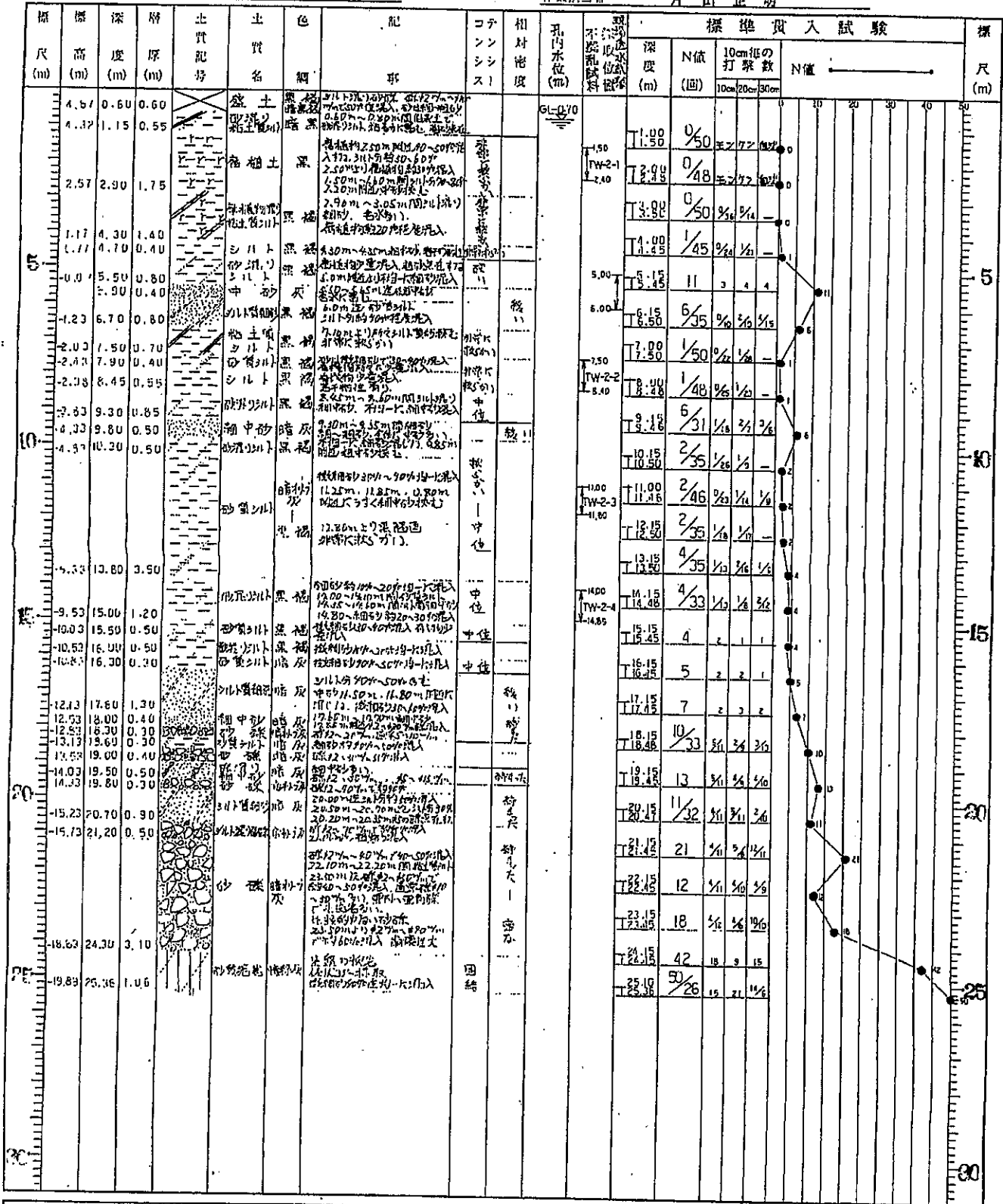
- 3) N値が2) のように分数表示の場合は、これを30cm貫入の場合に換算した値をプロットした。

出典 富岡町提供資料

処理場ボーリング調査委託土質柱状図 (No. 2号孔)

調査場所 富岡町六字弘法寺窪田 地内
 調査期日 自 2.7 至 2.11
 孔口標高 B.L.=5.47 (m)
 孔内水位 G.L.=0.70 (m)
 孔 径 $\phi 86$ (mm)

総掘進長 25.00 (m)
 使用機械 東邦 D-1 型
 調査責任者 五十嵐 宏 幸
 作業担当者 片山 正 明



備考 1) 試料採取位置は、試料土層および下層の深さをもってあらわし、土質試験試料には一連番号 (B-O-O) を付した。
 2) 標準貫入試験において、打込みが規定の深さ30cmでない場合は、打込み回数を分子に、打込み深さを分母にとってあらわした。

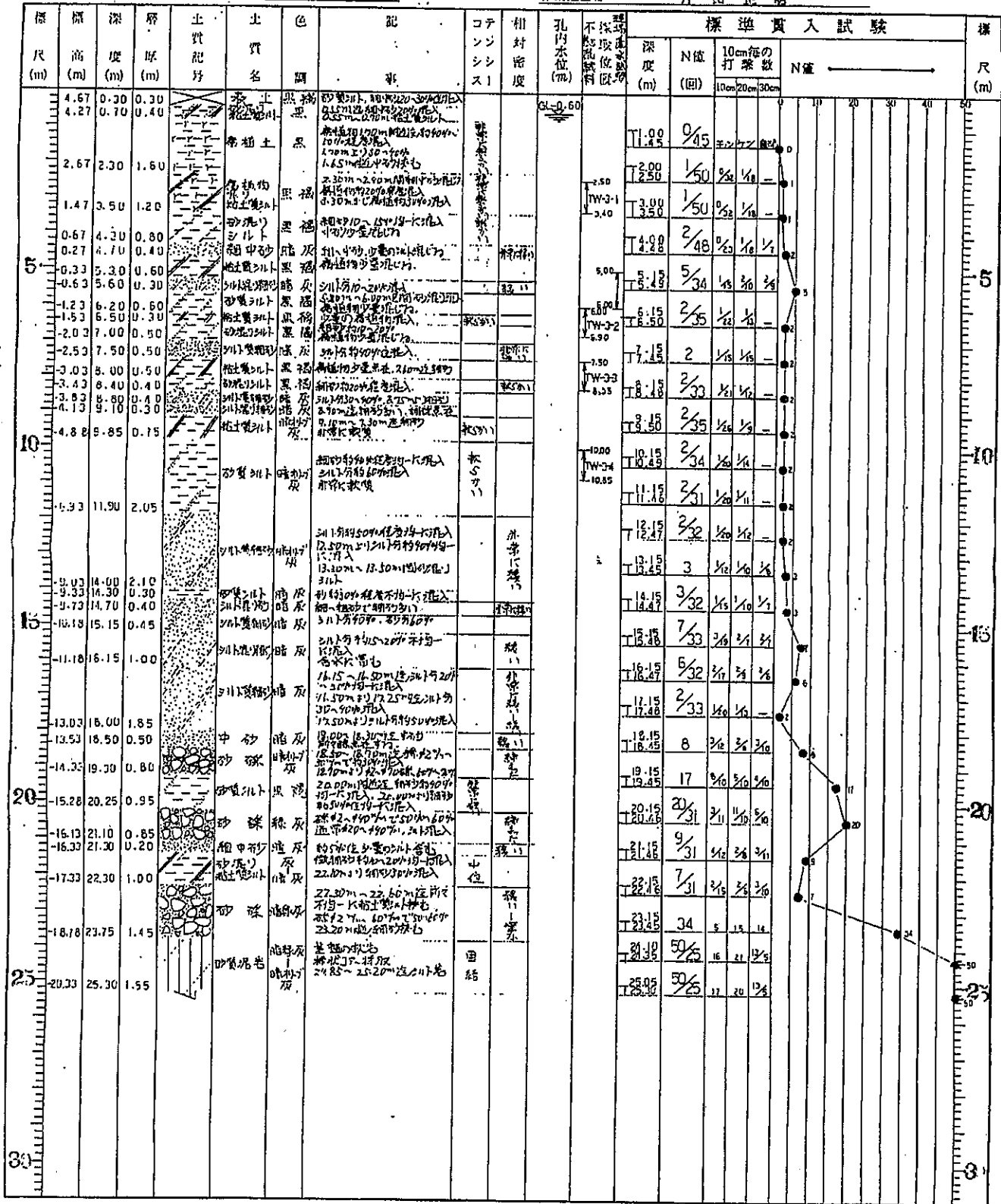
3) N値が2)のように分数表示の場合は、これを30cm貫入の場合に換算した値をプロットした。

出典 富岡町提供資料

処理場ボーリング調査委託土質柱状図 (No. 3号孔)

調査場所 富岡町大字仏漢字釜田 地内
 調査期日 自 2.15 至 2.20
 孔口標高 B.L. = 4.97 (m)
 孔内水位 G.L. = 0.60 (m)
 孔 径 φ86 (mm)

総掘進長 25.00 (m)
 使用機械 東邦 D-1 型
 調査責任者 五十嵐 宏 幸
 作業担当者 片 山 正 明



備考 1) 試料採取位置は、試料上端および下端の深さをもってあらわし、土質試験試料には一連番号 (B-O-O) を付した。
 2) 標準貫入試験において、打込みが規定の深さ30cmでない場合は、打込み回数を分子に、打込み深さを分母にとりてあらわした。

3) N値が2)のように分数表示の場合は、これを30cm貫入の場合に換算した値をプロットした。

出典 富岡町提供資料

H1 処理場ボーリング調査委託土質柱状図 (No. 4号孔)

調査場所 富岡町大字浜浜寺各田地内

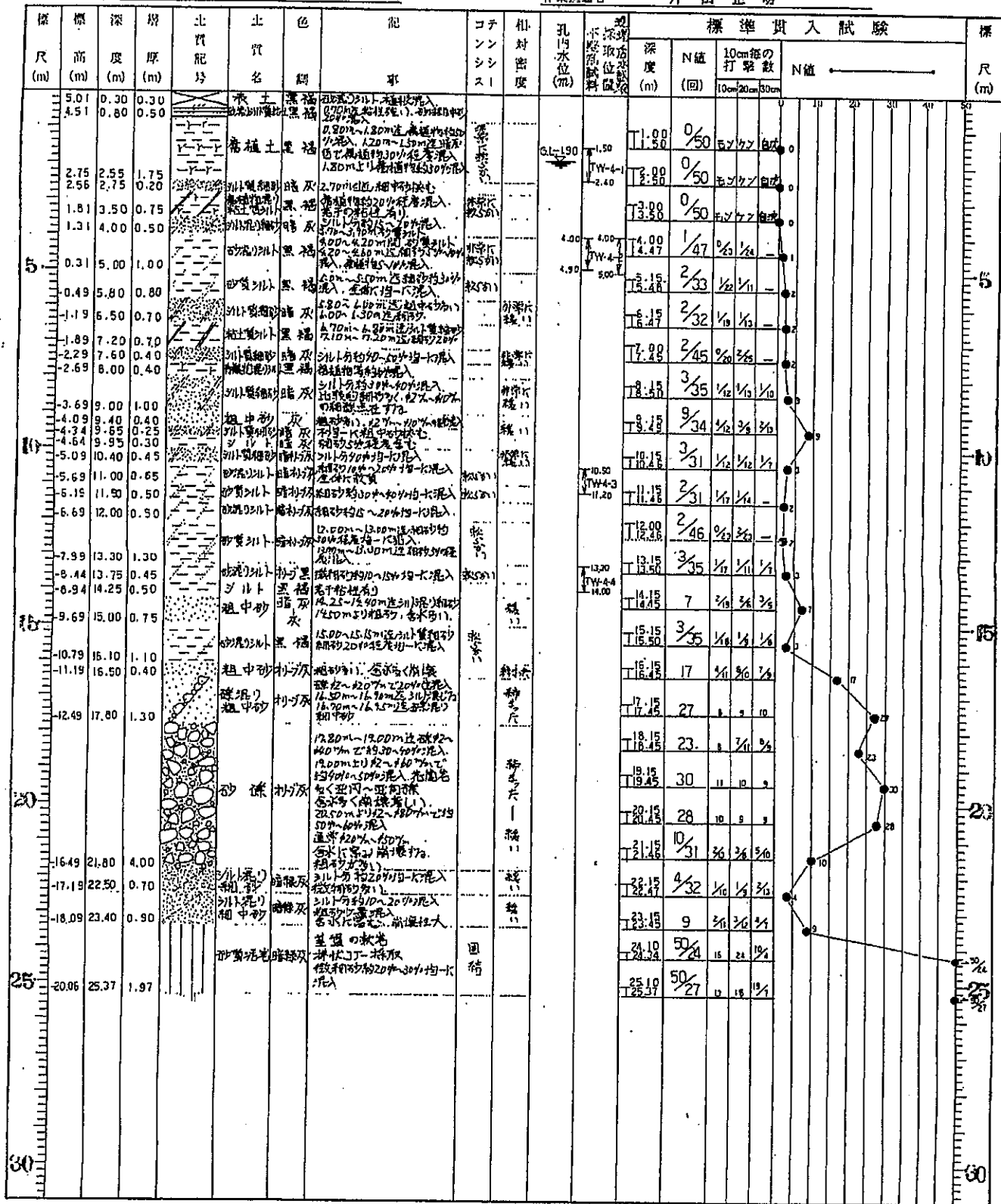
調査期日 月 2.25 至 3.2
 孔口標高 B.L. = 5.31 (m)
 孔内水位 G.L. = 1.90 (m)
 孔 径 φ86 (mm)

総掘進長 25.00 (m)

使用機械 東邦 D-I 型

調査責任者 五十嵐 定 幸

作業担当者 片 山 正 明



備考 1) 試料採取位置は、試料上端および下端の深度をもってあらわし、土質試験試料には一通番号 (B-O-O) を付した。
 2) 標準貫入試験において、打込みが規定の深さ30cmでない場合は、打込み回数を分子に、打込み深さを分母にとってあらわした。

3) N値が2)のように分数表示の場合は、これを30cm貫入の場合に換算した値をプロットした。

出典 富岡町提供資料

S63

富岡町中央幹線 土質調査 土質柱状図 (No. 3 号孔)

調査場所 茨城県富岡町大字仏塚字釜田境内
調査期日 H26.12.25 H26.12.25
孔口標高 GH=6.63 m
孔内水位 GL=0.85 m
孔 径 φ86 mm

総掘進長 10.00 m
使用機械 カノ・式 2-100 型
調査責任者 森 宏 昭 彦
作業担当者 佐々木 啓 男

深 尺 m	深 度 (m)	層 厚 (m)	土 質 記 号	土 質 名	色 調	記 事	土 質 シ ス テ ム	相 対 密 度	現 場 湿 度 試 験	不 試 料 採 取 乱 取	標準貫入試験										深 尺 (m)	
											深 度 (m)	N値 (回)	10cm毎の 打撃数		N値							
													10cm	20cm	30cm	40cm	50cm	60cm	70cm	80cm		90cm
1	6.13	0.70	0.70	藍土	暗褐色	上は0.10、下は7.77、 H.F. 30cm前後の硬さを有す。					1.15	2	1	20	1							1
2				砂質 シルト	暗褐色	粘り粘り気味を有す。 所々腐植物の混入がみられ、 30cm付近より混入。	粘り				2.15	1	35	0	1	16						2
3				砂質 シルト	暗褐色	粘り粘り気味を有す。 所々腐植物の混入がみられ、 30cm付近より混入。	粘り				3.15	0	35	0	35	1	16					3
4				砂質 シルト	暗褐色	粘り粘り気味を有す。 所々腐植物の混入がみられ、 30cm付近より混入。	粘り				4.15	2	37	0	1	1	1					4
5	4.03	4.80	4.10	シルト質 粘土	暗褐色	粘り粘り気味を有す。 所々腐植物の混入がみられ、 下層に於いては割合の混入がみられ、	粘り				5.15	1	0	1	1	20						5
6	2.23	6.60	1.80	シルト質 砂	暗褐色	粘り粘り気味を有す。 所々腐植物の混入がみられ、 下層に於いては割合の混入がみられ、	粘り				6.15	1	35	0	1	25						6
7				シルト質 砂	暗褐色	粘り粘り気味を有す。 所々腐植物の混入がみられ、 下層に於いては割合の混入がみられ、	粘り				7.15	45	45	21	14	10						7
8	0.63	8.20	1.60	砂質 泥	暗褐色	粘り粘り気味を有す。 所々腐植物の混入がみられ、 下層に於いては割合の混入がみられ、	粘り				8.15	50	26	9	20	21						8
9				砂質 泥	暗褐色	粘り粘り気味を有す。 所々腐植物の混入がみられ、 下層に於いては割合の混入がみられ、	粘り				9.05	50	16	28	22	6						9
10	1.37	10.20	2.00	砂質 泥	暗褐色	粘り粘り気味を有す。 所々腐植物の混入がみられ、 下層に於いては割合の混入がみられ、	粘り				10.05	50	15	31	19							10

備考 1) 試料採取位置は、試料採取の目的により定められ、
土質調査試料には、地層の 1m ごとに採取した。
2) 標準貫入試験において、打込みを規定の長さ 30cm の場合、
打込み回数を分けて、打込みの長さ 30cm の場合、
3) N値が 2) のように分数表示の場合、これを 30cm 貫入の場合
に換算した値をフロッツした。

出典 富岡町提供資料

S63
富岡町中央幹線 土質調査 土質柱状図 (No. 4 号孔)

調査場所 22番 富岡町大字仏道寺美真地内
調査期日 自 S62.12.14 迄 S62.12.15
孔口標高 GH= 9.36 (m)
孔内水位 GL= 1.05 (m)
孔 径 φ86 (mm)

総掘進長 12.00 (m)
使用機種 カノ-R-100型
調査責任者 桑 名 彰 彦
作業担当者 佐々木 隆 雄

標 尺 (m)	深 度 (m)	層 厚 (m)	土 質 記 号	土 質 名 調	色 調	記 事	コナ ン シ ス ト	相 対 密 度	現 場 透 水 試 験	不 試 料 採 取 乱 取	標準貫入試験					標 尺 (m)
											深 度 (m)	N値 (回)	10cm毎の 打撃数	N値		
1	9.16	1.20	1.20	盛土	暗灰	0.00~0.15の間、砂れがある。 0.15~1.00の間、硬泥の砂質 粘土で、40%の砂混在。 腐植性土の粘り土を有す。	取				1.15 47	4	32	15	1/8	1
2	7.46	1.90	0.70	砂質粘土	暗灰	粘り土を有す。 含まれ、 不規則に砂質砂を混入し、特に 3.85~4.00の間、微細砂が 多い。 所々泥を腐植性土と互在。 粘り土の砂り土を有す。	取				2.15 55	2	40	15	1/5	2
3				砂質シルト	暗灰	微細砂を混入し、特に 3.85~4.00の間、微細砂が 多い。 所々泥を腐植性土と互在。 粘り土の砂り土を有す。	取				3.15 54	2	39	0	1/4	3
4				砂質シルト	暗灰	微細砂を混入し、特に 3.85~4.00の間、微細砂が 多い。 所々泥を腐植性土と互在。 粘り土の砂り土を有す。	取				4.15 52	3	37	1/2	1/2	4
5	4.31	5.05	3.15	シルト質粘土	暗灰	微細砂を混入し、特に 3.85~4.00の間、微細砂が 多い。 所々泥を腐植性土と互在。 粘り土の砂り土を有す。	取				5.15 50	2	35	0	1/6	5
6	3.26	6.10	1.05	シルト質粘土	暗灰	微細砂を混入し、特に 3.85~4.00の間、微細砂が 多い。 所々泥を腐植性土と互在。 粘り土の砂り土を有す。	取				6.15 55	3	40	1/2	1/2	6
7				砂質シルト	暗灰	微細砂を混入し、特に 3.85~4.00の間、微細砂が 多い。 所々泥を腐植性土と互在。 粘り土の砂り土を有す。	取				7.15 49	2	34	0	1/1	7
8				砂質シルト	暗灰	微細砂を混入し、特に 3.85~4.00の間、微細砂が 多い。 所々泥を腐植性土と互在。 粘り土の砂り土を有す。	取				8.15 51	2	36	1/2	1/1	8
9	0.29	9.75	3.55	砂質シルト	暗灰	微細砂を混入し、特に 3.85~4.00の間、微細砂が 多い。 所々泥を腐植性土と互在。 粘り土の砂り土を有す。	取				9.15 45	2	30	1		9
10	0.99	0.35	0.60	砂質シルト	暗灰	微細砂を混入し、特に 3.85~4.00の間、微細砂が 多い。 所々泥を腐植性土と互在。 粘り土の砂り土を有す。	取				10.15 45	7	4	2/5	1/5	10
11	1.39	10.75	0.40	砂質シルト	暗灰	微細砂を混入し、特に 3.85~4.00の間、微細砂が 多い。 所々泥を腐植性土と互在。 粘り土の砂り土を有す。	取				11.05 24	50	19	15	3/6	11
12	2.84	12.20	1.45	砂質泥	暗灰	微細砂を混入し、特に 3.85~4.00の間、微細砂が 多い。 所々泥を腐植性土と互在。 粘り土の砂り土を有す。	取				12.05 20	50	15	31	1/4	12

備考 1) 試料採取位置は、試料土質の上下端の深さをもってあらわし、
土質試験試料には、連番(1) (2) (3) を付した。
2) 標準貫入試験において、打撃が規定の長さ(30cm)でない場合は、
打撃回数を分子に、打撃長さ(30cm)を分母としてあらわした。

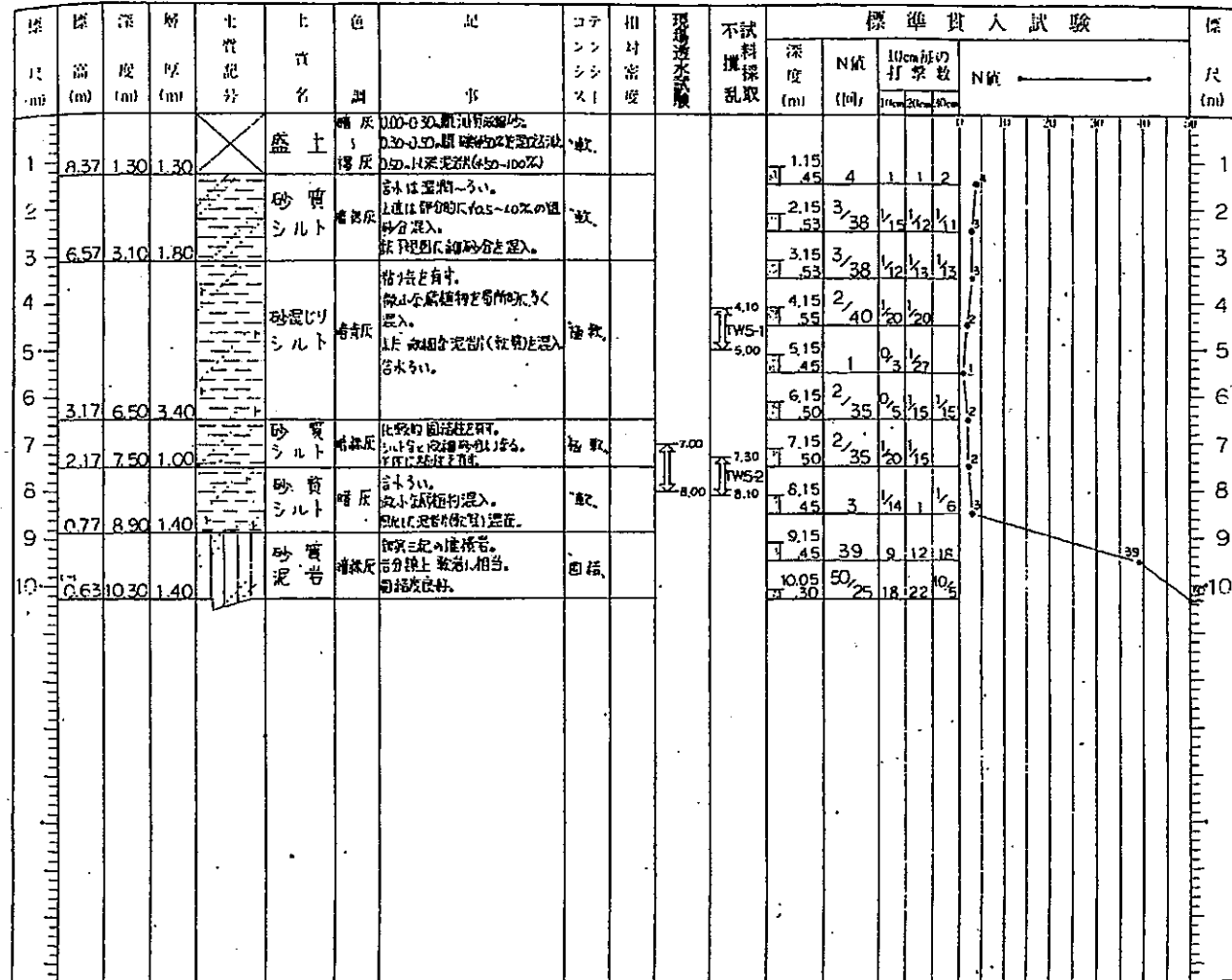
3) N値が2)のように分数表示の場合は、これを30cm貫入の場合
に換算した値をプロットした。

出典 富岡町提供資料

S63
富岡町中央幹線 土質調査 土質柱状図 (No. 5号孔)

調査場所 22番野宮岡町大字仏堂家並内
調査期日 日 S62.12.9 日 S62.12.10
孔口標高 G.H.=9.67 m
孔内水位 G.I.=3.00 m
孔 径 φ86 mm

総掘進長 10.00 m
使用機具 カノ-R-100型
調査員佐々木 和彦
作業担当者 佐々木 隆男



備考 1) 試料採取深度は、試料採取した深度をもってあらわし、
2) 標準貫入試験において、打込みが規定より30cmでない場合は、
打込み回数を分母に、打込み量を分子にあらわした。

3) N値が2)のように分数表示の場合は、これを30cm貫入の場合
に換算した値をプロットした。

出典 富岡町提供資料

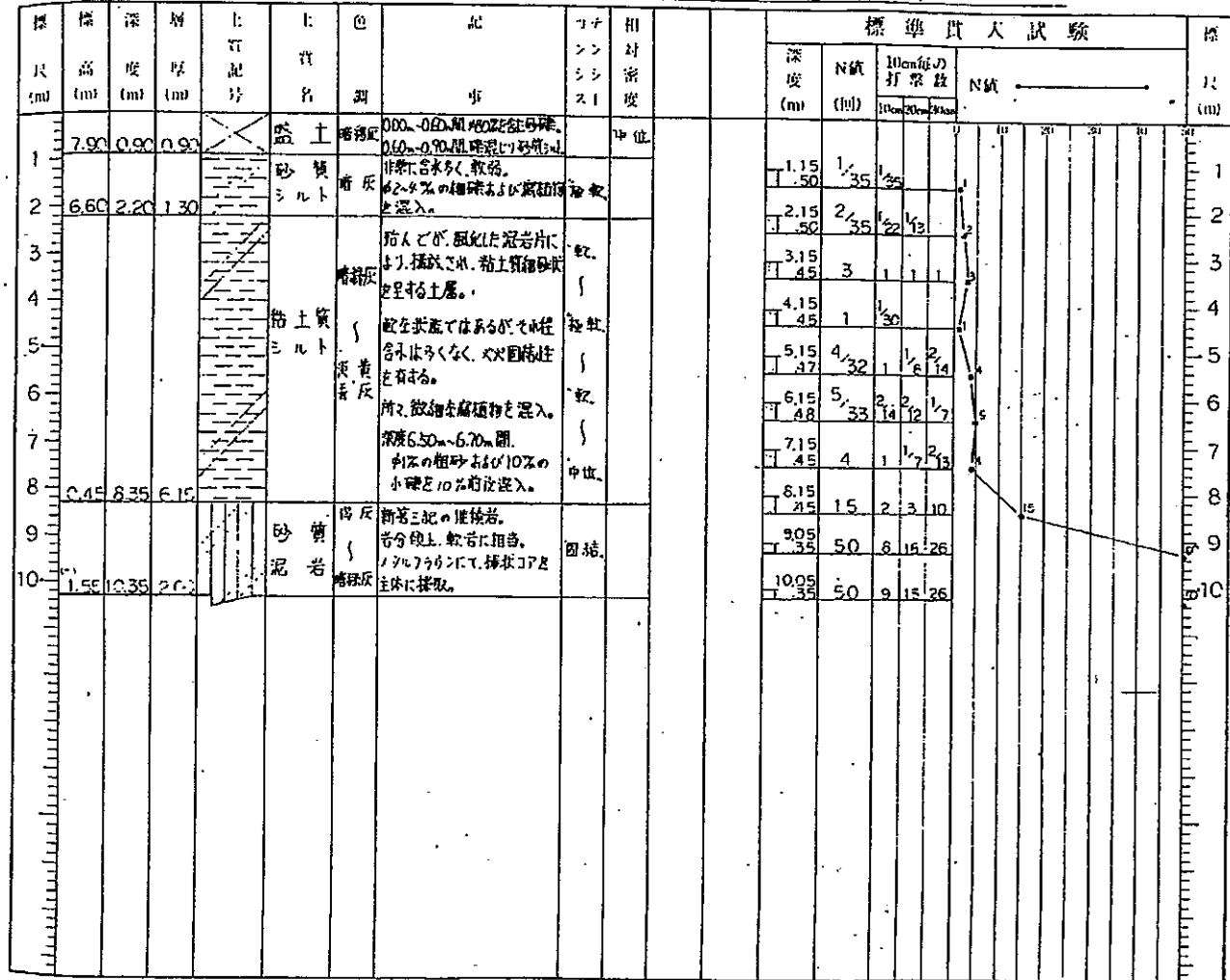
S63

富岡町中央幹線 土質調査

土質柱状図 (No. 7号孔)

調査場所 群馬県富岡町大字仏成字釜田地内
 調査期日 S63.1.23 日 S63.1.23
 孔口標高 GH= 8.80 m
 孔内水位 GI= 1.35 m
 孔 径 $\phi 86$ m/m

総掘進長 10.00 m
 使用機械 カノ-R-100型
 調査責任者 浜 名 和 孝
 作業担当者 佐々木 隆 男



備考 1 土質記号は、試料土壌および掘削の深さをもってあらわし。
 土質記号には、土質記号 (日-O-O) を付した。
 2 標準貫入試験において、打込みが規定の深さ30cmでない場合は、
 打込み回数を分子に、打込み深さを分母に記すこととした。

3) N値が2) のように分数表示の場合は、これを30cm貫入の場合
 に換算した値をプロットした。

出典 富岡町提供資料

S63

1-0 8

富岡町中央幹線 土質調査

土質柱状図 (No. 8 号柱)

調査場所 22番富岡町大字仏添字第四地内

調査期日 H.S63.1.25 至 S63.1.25

孔口標高 GH=10.16 (m)

孔内水位 噴霧さみ (m)

孔径 φ86 (mm)

総掘進長 10.00 (m)

使用機械 スノ-R.R-100型

調査責任者 森 名 和 彦

作業担当者 立 木 隆 男

標 尺 m	標 高 m	深 度 (m)	層 厚 (m)	土 質 記 号	土 質 名	色 調	記 事	コ テ ン シ ス	相 対 密 度	標 準 貫 入 試 験										標 尺 m	
										深 度 (m)	N値 (回)	10cm毎の 打撃数			N値						
												10cm	20cm	30cm							
	9.65	0.50	0.50		砂 質 泥 岩	暗灰色	新第三紀の堆積岩。 岩質硬く、砂質に相当。 固結度良好で、170/70の にて棒状コアを主として採取。 構成粒は、全所に泥質 へ微細砂質となっている。 砂の割合の多い部分を除く 砂状、粘状に凝り、凝りや 浸水は確認できない。	中硬		1.05 T 32	50 27	13	13	19 7							1
1										2.05 T 35	43	11	12	20							2
2										3.05 T 35	43	8	13	22							3
3										4.05 T 35	50	10	17	23							4
4										5.05 T 35	50	10	16	24							5
5										6.05 T 31	50 26	11	19	26							6
6										7.05 T 31	50 26	10	21	19 6							7
7										8.05 T 32	50 28	12	19	19 6							8
8										9.05 T 28	50 23	14	29	7 3							9
9										10.05 T 35	40	10	13	17							10
10	0.19	10.35	9.65																		

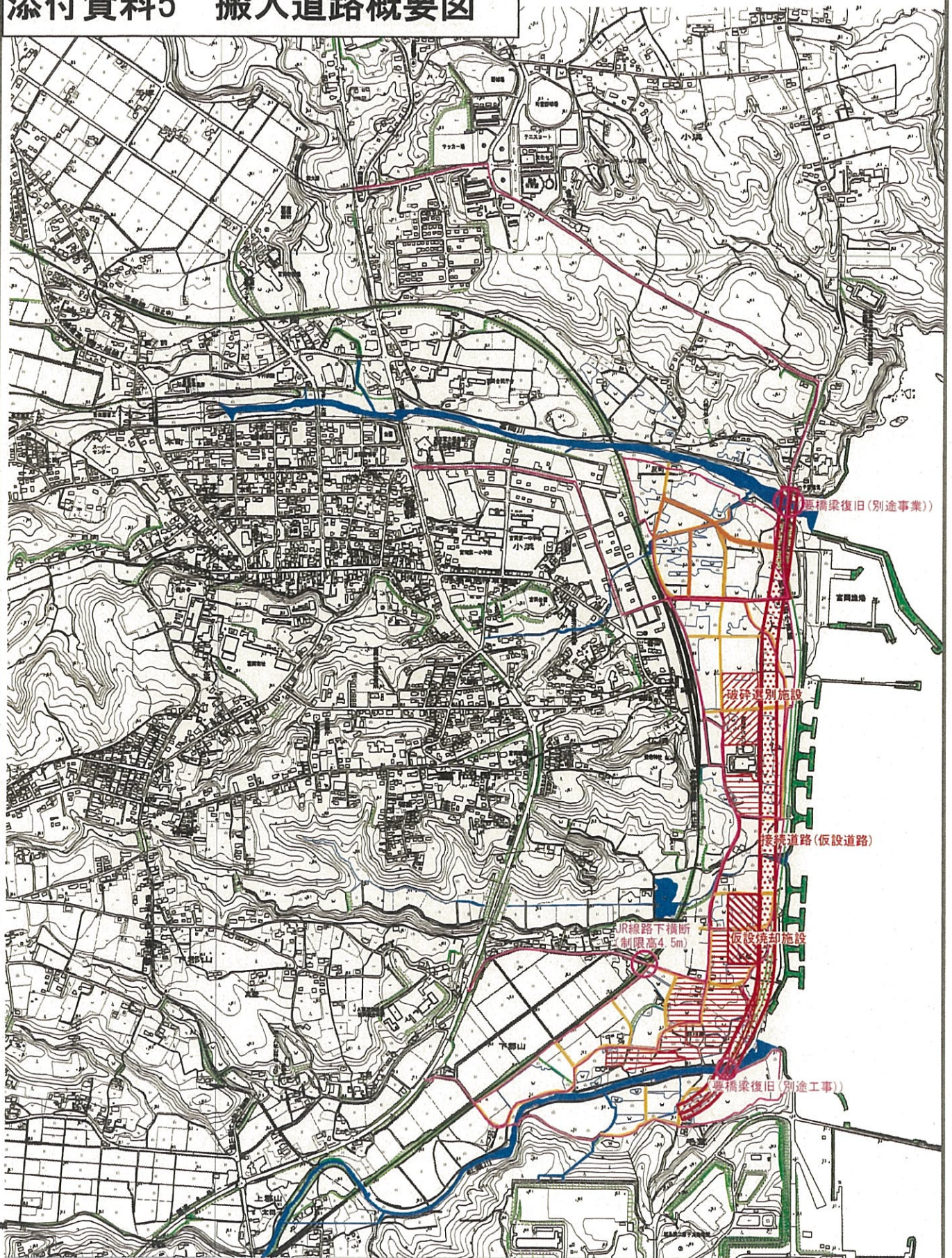
備考 1. 試料採取位置は、試料土質および深度を記入してある。

2. 標準貫入試験には、(地質) B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z、AA、AB、AC、AD、AE、AF、AG、AH、AI、AJ、AK、AL、AM、AN、AO、AP、AQ、AR、AS、AT、AU、AV、AW、AX、AY、AZ、BA、BB、BC、BD、BE、BF、BG、BH、BI、BJ、BK、BL、BM、BN、BO、BP、BQ、BR、BS、BT、BU、BV、BW、BX、BY、BZ、CA、CB、CC、CD、CE、CF、CG、CH、CI、CJ、CK、CL、CM、CN、CO、CP、CQ、CR、CS、CT、CU、CV、CW、CX、CY、CZ、DA、DB、DC、DD、DE、DF、DG、DH、DI、DJ、DK、DL、DM、DN、DO、DP、DQ、DR、DS、DT、DU、DV、DW、DX、DY、DZ、EA、EB、EC、ED、EE、EF、EG、EH、EI、EJ、EK、EL、EM、EN、EO、EP、EQ、ER、ES、ET、EU、EV、EW、EX、EY、EZ、FA、FB、FC、FD、FE、FF、FG、FH、FI、FJ、FK、FL、FM、FN、FO、FP、FQ、FR、FS、FT、FU、FV、FW、FX、FY、FZ、GA、GB、GC、GD、GE、GF、GG、GH、GI、GJ、GK、GL、GM、GN、GO、GP、GQ、GR、GS、GT、GU、GV、GW、GX、GY、GZ、HA、HB、HC、HD、HE、HF、HG、HH、HI、HJ、HK、HL、HM、HN、HO、HP、HQ、HR、HS、HT、HU、HV、HW、HX、HY、HZ、IA、IB、IC、ID、IE、IF、IG、IH、II、IJ、IK、IL、IM、IN、IO、IP、IQ、IR、IS、IT、IU、IV、IW、IX、IY、IZ、JA、JB、JC、JD、JE、JF、JG、JH、JI、JJ、JK、JL、JM、JN、JO、JP、JQ、JR、JS、JT、JU、JV、JW、JX、JY、JZ、KA、KB、KC、KD、KE、KF、KG、KH、KI、KJ、KK、KL、KM、KN、KO、KP、KQ、KR、KS、KT、KU、KV、KW、KX、KY、KZ、LA、LB、LC、LD、LE、LF、LG、LH、LI、LJ、LK、LL、LM、LN、LO、LP、LQ、LR、LS、LT、LU、LV、LW、LX、LY、LZ、MA、MB、MC、MD、ME、MF、MG、MH、MI、MJ、MK、ML、MM、MN、MO、MP、MQ、MR、MS、MT、MU、MV、MW、MX、MY、MZ、NA、NB、NC、ND、NE、NF、NG、NH、NI、NJ、NK、NL、NM、NN、NO、NP、NQ、NR、NS、NT、NU、NV、NW、NX、NY、NZ、OA、OB、OC、OD、OE、OF、OG、OH、OI、OJ、OK、OL、OM、ON、OO、OP、OQ、OR、OS、OT、OU、OV、OW、OX、OY、OZ、PA、PB、PC、PD、PE、PF、PG、PH、PI、PJ、PK、PL、PM、PN、PO、PP、PQ、PR、PS、PT、PU、PV、PW、PX、PY、PZ、QA、QB、QC、QD、QE、QF、QG、QH、QI、QJ、QK、QL、QM、QN、QO、QP、QQ、QR、QS、QT、QU、QV、QW、QX、QY、QZ、RA、RB、RC、RD、RE、RF、RG、RH、RI、RJ、RK、RL、RM、RN、RO、RP、RQ、RR、RS、RT、RU、RV、RW、RX、RY、RZ、SA、SB、SC、SD、SE、SF、SG、SH、SI、SJ、SK、SL、SM、SN、SO、SP、SQ、SR、SS、ST、SU、SV、SW、SX、SY、SZ、TA、TB、TC、TD、TE、TF、TG、TH、TI、TJ、TK、TL、TM、TN、TO、TP、TQ、TR、TS、TT、TU、TV、TW、TX、TY、TZ、UA、UB、UC、UD、UE、UF、UG、UH、UI、UJ、UK、UL、UM、UN、UO、UP、UQ、UR、US、UT、UU、UV、UW、UX、UY、UZ、VA、VB、VC、VD、VE、VF、VG、VH、VI、VJ、VK、VL、VM、VN、VO、VP、VQ、VR、VS、VT、VU、VV、VW、VX、VY、VZ、WA、WB、WC、WD、WE、WF、WG、WH、WI、WJ、WK、WL、WM、WN、WO、WP、WQ、WR、WS、WT、WU、WV、WW、WX、WY、WZ、XA、XB、XC、XD、XE、XF、XG、XH、XI、XJ、XK、XL、XM、XN、XO、XP、XQ、XR、XS、XT、XU、XV、XW、XX、XY、XZ、YA、YB、YC、YD、YE、YF、YG、YH、YI、YJ、YK、YL、YM、YN、YO、YP、YQ、YR、YS、YT、YU、YV、YW、YX、YY、YZ、ZA、ZB、ZC、ZD、ZE、ZF、ZG、ZH、ZI、ZJ、ZK、ZL、ZM、ZN、ZO、ZP、ZQ、ZR、ZS、ZT、ZU、ZV、ZW、ZX、ZY、ZZ

3. N値が2)のように分数表示の場合は、これを30cm貫入の場合に換算した値をプロットした。

出典 富岡町提供資料

添付資料5 搬入道路概要図



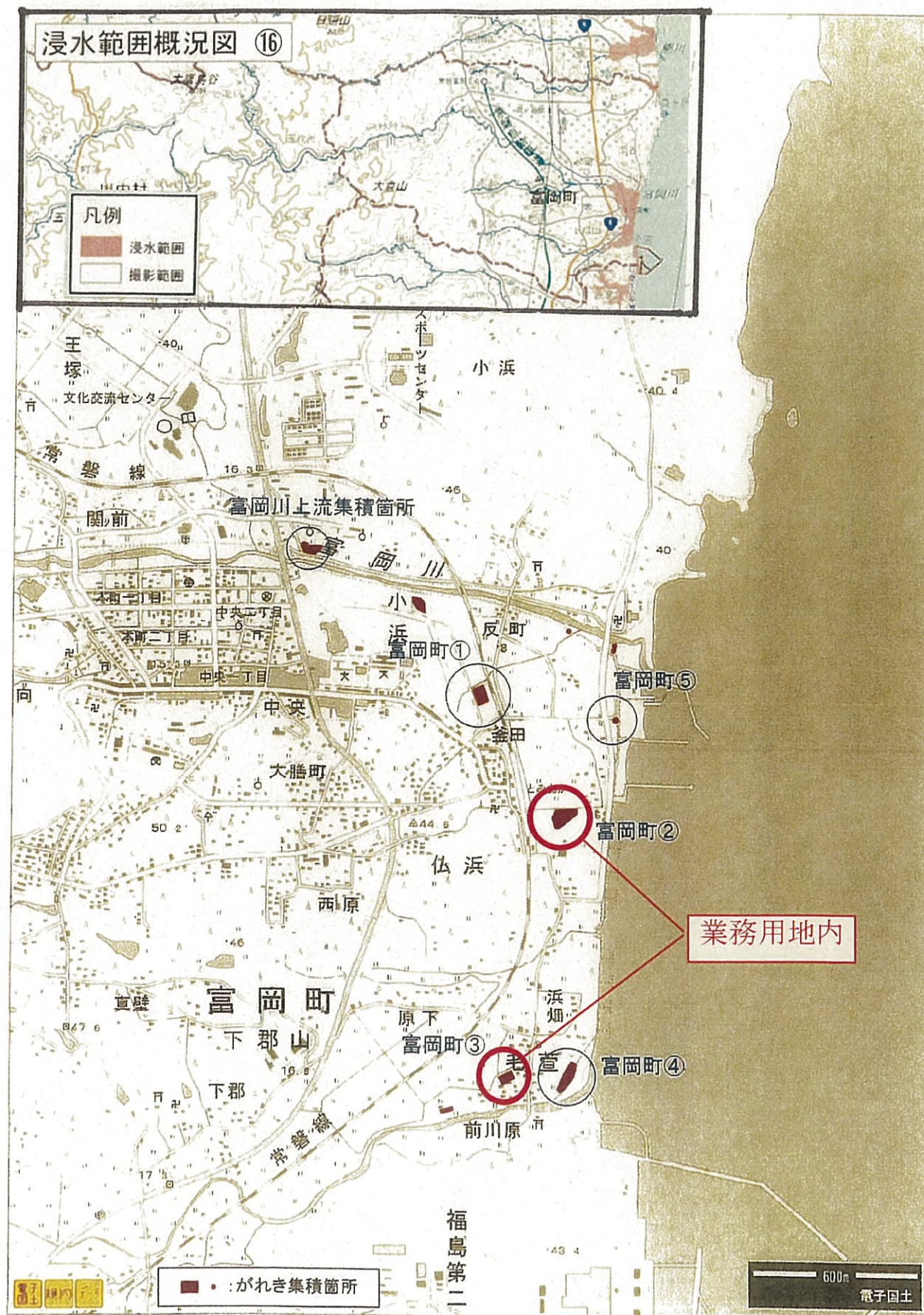
注1) 図中の搬入道路は現時点での想定であり、今後、変更となる可能性がある。

注2) 破砕部の箇所・面積は、発注時点での計画であり、今後、変更となる可能性がある。

0 100 200 300 400 500 1,000m

添付資料6 主要な津波廃棄物の位置及び写真

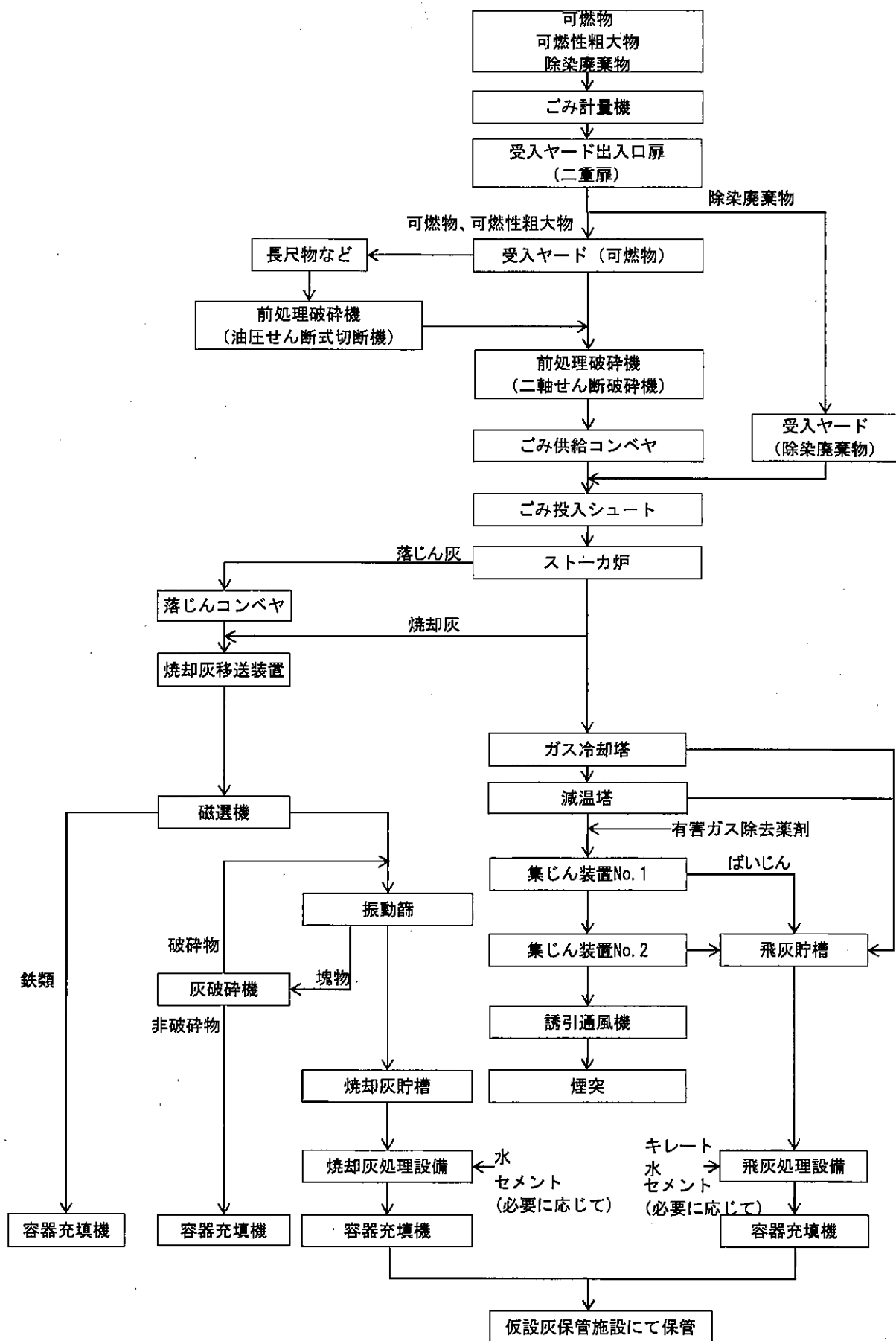
富岡町のがれき集積位置図



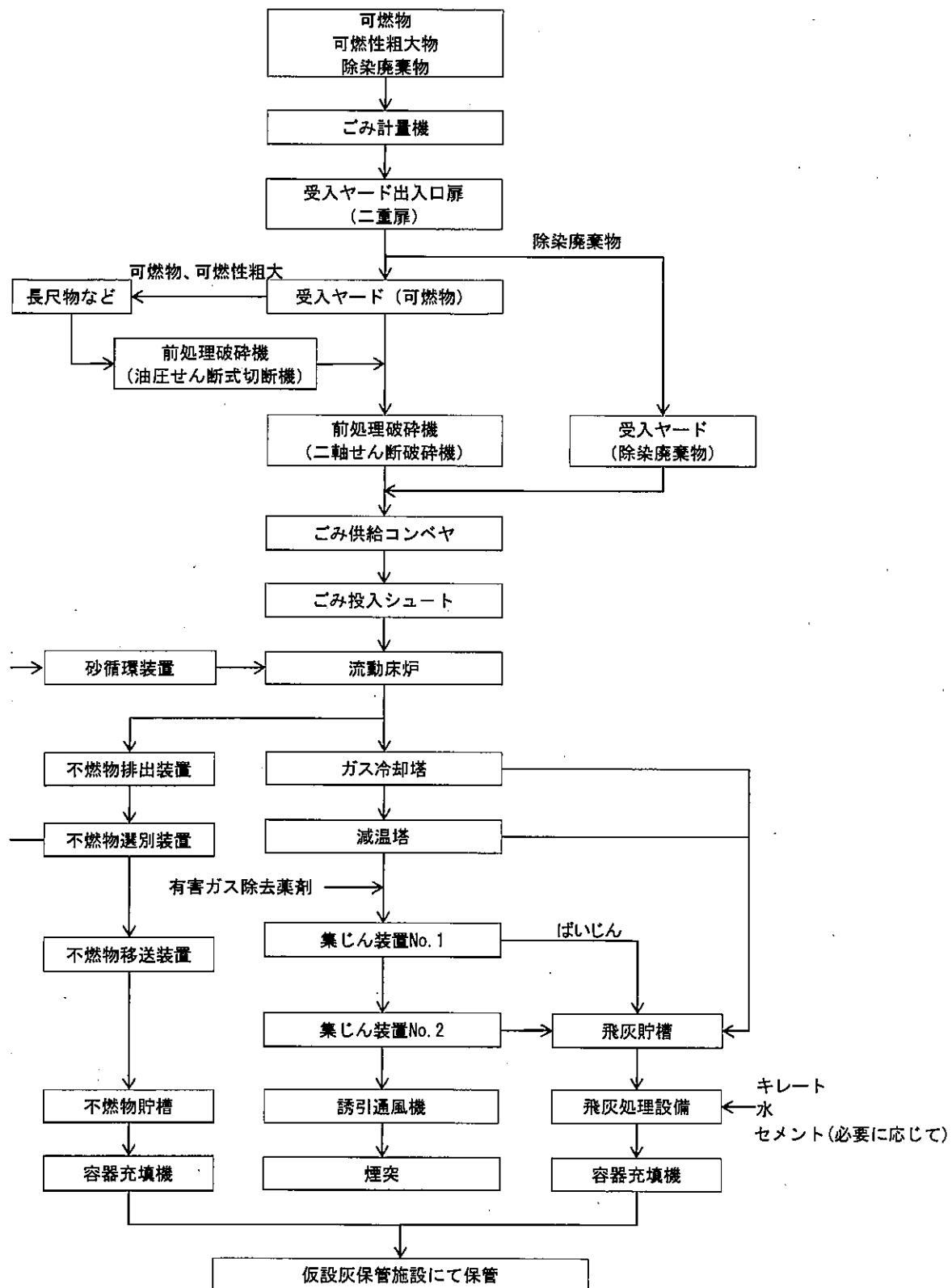
富岡町津波廃棄物現地写真



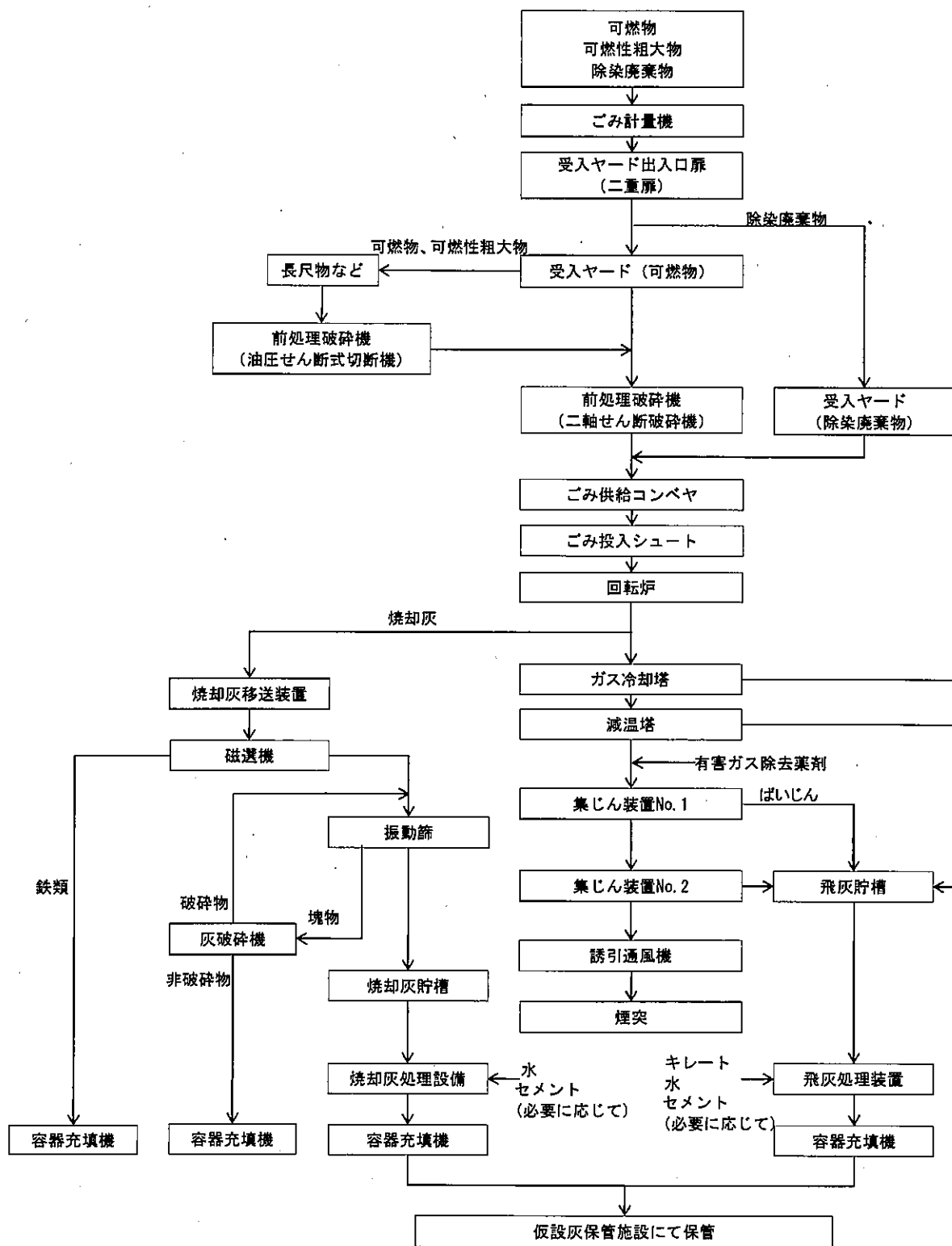
添付資料7 仮設焼却施設の処理フロー（ストリーカ式）（参考）



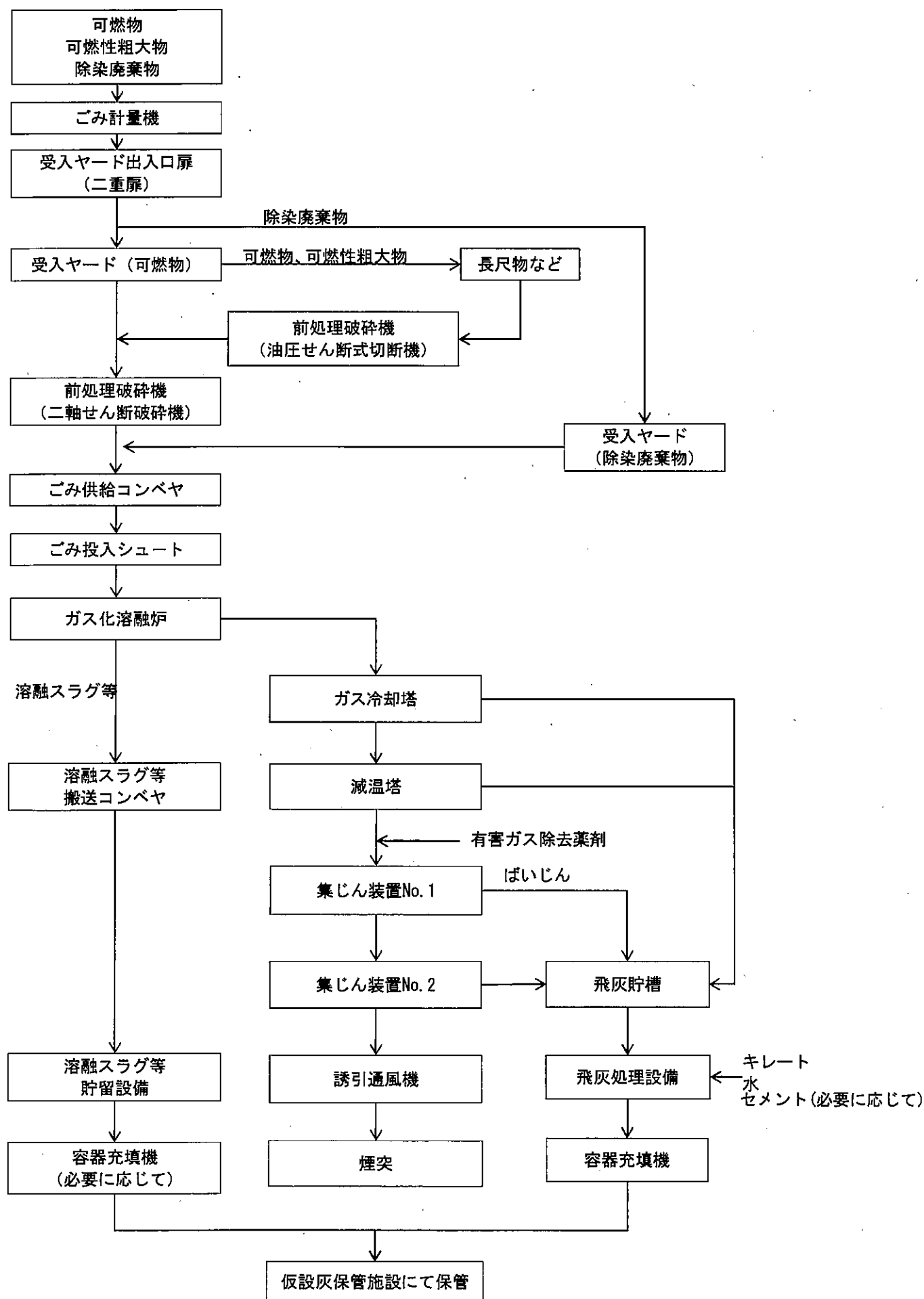
添付資料7 仮設焼却施設の処理フロー（流動床式）（参考）



添付資料7 仮設焼却施設の処理フロー（回転炉式）（参考）



添付資料7 仮設焼却施設の処理フロー（ガス化溶融炉 シャフト炉式）（参考）



添付資料7 仮設焼却施設の処理フロー（ガス化溶融炉 流動床式）（参考）

